作成日 2010年2月24日

化学物質等安全データシート

1. 化学物質等及び会社情報

化学物質等の名称	: アロンペネット
会社名	: 東亞合成株式会社
住所	: 東京都港区西新橋1-14-1
担当部門	: 機能樹脂事業部
電話番号	: 03-3597-7275
FAX番号	: 03-3597-7297
緊急連絡先	: 03-3597-7275(機能樹脂事業部 接着剤グループ)
推奨用途及び使用上の制限	: 防錆浸透潤滑剤

2. 危険有害性の要約

重要危険有害性及び影響 : アレルギー皮膚反応を起こすおそれ

特有の危険有害性

【GHS分類】

物理化学的危険性

火薬類	: 分類対象外
可燃性・引火性ガス	: 分類対象外
可燃性・引火性エアゾール	: 区分1
支燃性・酸化性ガス	: 分類対象外
高圧ガス	: 液化ガス
引火性液体	: 区分4
可燃性固体	: 分類対象外
自己反応性化学品	: 分類対象外
自然発火性液体	: 区分外
自然発火性固体	: 分類対象外
自己発熱性化学品	: 分類できない
水反応可燃性化学品	: 分類できない
酸化性液体	: 分類できない
酸化性固体	: 分類対象外
有機化酸化物	: 分類できない
金属腐食性物質	: 分類できない

健康に対する有害性

急性毒性(経口)	: 分類できない
急性毒性(経皮)	: 分類できない
急性毒性(吸入;ガス)	: 区分外
急性毒性(吸入;蒸気)	: 分類できない
急性毒性(吸入;粉じん・ミスト)	: 分類できない
皮膚腐食性・刺激性	: 区分3
眼に対する重篤な損傷性・眼刺激性	: 分類できない
呼吸器感作性	: 分類できない
皮膚感作性	: 分類できない

生殖細胞変異原性　　　　　　　：分類できない
発がん性　　　　　　　　　　　：分類できない
生殖毒性　　　　　　　　　　　：分類できない
標的臓器・全身毒性（単回曝露）：区分３（麻酔作用）
標的臓器・全身毒性（反復曝露）：分類できない
吸引性呼吸器有害性　　　　　　：区分１

環境に対する有害性
水生環境急性有害性　　　　　　：分類できない
水生環境慢性有害性　　　　　　：分類できない

【ＧＨＳラベル要素】
絵表示

注意喚起語　　　　　　　　　　：危険

危険有害性情報
極めて可燃性・引火性の高いエアゾール
加圧ガス；熱すると爆発のおそれ
可燃性液体
軽度の皮膚刺激
（麻酔作用）眠気またはめまいのおそれ
飲み込み、気道に侵入すると生命に危険のおそれ

取扱注意
予防策　：　保護手袋および保護眼鏡／保護面を着用すること。
炎および高温のものから遠ざけること。
屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。
加圧容器：使用後も含め、穴をあけたり燃やしたりしないこと。
熱・火花・裸火・高温のもの（のような着火源）から遠ざけること。−禁煙。
ガス・ミスト・蒸気・スプレーの吸入を避けること。
裸火または高温の白熱体に噴霧しないこと。
対応　：　火災の場合には、消火に二酸化炭素、泡消火剤、粉末消火剤を使用すること。
飲み込んだ場合は直ちに医師に連絡すること。
気分が悪い時は医師に連絡すること。
吸入した場合、空気の新鮮な場所に移し呼吸しやすい姿勢で休息させること。
吐かせないこと。
皮膚刺激が生じた場合、医師の診断・手当てを受けること。
保管　：　日光から遮断し、涼しい所・換気の良い場所で保管し、40℃を超える温度に曝露しないこと。
容器を密閉して、施錠して保管すること。
廃棄　：　内容物や容器の廃棄は、各都道府県知事などの許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託する。

ＧＨＳ分類に該当しない他の危険性
分類　：　高圧ガス（可燃性ガス）、引火性液体。
危険性　：　可燃性ガスが入っている。引火及び高温による内圧上昇により破裂の恐れがある。
有害性　：　非常に燃えやすい液体である。高濃度の気体を吸入すると、弱い麻酔性のため、一時的に神経系の機能低下を生じる恐れがある。又、液状のガスが皮膚に触れると凍傷を生じる恐れがある。

３．組成・成分情報（混合物・危険有害物質を対象）

成分名（別名）		CAS NO	含有濃度（質量%）	化学式又は構造式	官報告示整理番号（化審法）
液化ﾌﾟﾛﾊﾟﾝ		74-98-6	10.0～20.0	C3H8	2-3
液化 n-ﾌﾞﾀﾝ		106-97-8	15.0～25.0	C4H10	2-4
液化 i-ﾌﾞﾀﾝ		75-28-5	1.0～5.0	C4H10	2-4
合成ｲｿﾊﾟﾗﾌｨﾝ系炭化水素		68551-20-2 68551-17-7	30.0～40.0	明記できない	2-10
防錆剤成分	鉱油（流動ﾊﾟﾗﾌｨﾝ）	非公開	12.5～15.0	非公開	非公開
	その他成分	非公開	2.7～17.5	非公開	非公開

４．応急措置

以下のいずれの場合も医師の手当を受けること。

目に入った場合　：直ちに清浄な大量の水で最低 15 分間洗い流す。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。さらに長時間洗浄を続けること。速やかに医師の手当てを受ける。洗眼の際、まぶたを指で良く開いて、眼球、まぶたの隅々まで水が良くいきわたるように洗う。

皮膚に付着した場合　：汚染された衣服、靴等をすべて脱ぎ、皮膚に付着した部分を直ちに流水で洗浄した後、石鹸を使用してよく洗浄する。
溶剤、シンナーは使用しないこと。ガスの付着を受け、凍傷となった場合は衣服を脱がせず、そのまま多量の水または温水で洗い流す。外観に変化が見られたり、痛みがあったりした場合には医師の手当てを受けること。

吸入した場合　：被災者を直ちに空気の新鮮な場所に移し、温かく安静にして、呼吸しやすい姿勢で休息させること。呼吸が不規則か止まっている場合には人工呼吸を行うこと。また、直ちに医師の手当てを受けること。

飲み込んだ場合　：揮発性液体を含んでいるので、嘔吐させるとかえって危険が増す。無理に吐かせず直ちに医師の手当てを受ける。水で良く口の中を洗ってもよい。

最も重要な兆候及び症状　：特になし。
応急措置をする者の保護　：救助者は状況に応じて適切な保護具を着用する。
医師に対する特別注意事項　：特になし。

５．火災時の措置

消火剤　：二酸化炭素、泡消火剤、粉末消火薬剤
使用してならない消火剤　：棒状の水
火災時特有の危険有害性　：火災の現場にエアゾール容器があると破裂する恐れがある。
火災によって有害なガスを発生する恐れがある。
特定の消火方法　：作業は風上から行い、火災発生周辺への関係者以外の立ち入りを禁止する。
可燃性の物を周囲から素早く取り除くこと。
火元の燃料源を断つ。

初期消火の場合、粉末消火剤、二酸化炭素等を用いる。
大規模火災の場合、泡消火剤を使用して消火し、空気を遮断することが有効である。
指定の消火器を使用すること。
火災の現場にエアゾール容器があると破裂する恐れがあるので、消火活動には距離を十分に取り、高温にさらされる製品容器には水等をかけて冷却する。
周辺火災の場合には、周囲の設備等に散水し冷却する。
移動可能な場合は、容器を速やかに安全な場所へ移す。

消火を行う者の保護 : 消火者は必ず適切な保護具(耐熱着衣、保護眼鏡等)を着用し、有毒ガスが発生する為、自給式呼吸具等を装備する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項 : 曝露防止の為、作業の際には適切な保護具を着用する。

保護具及び緊急措置 : 漏れ発生時(噴出等)には風上より処置を行うようにし、容器の漏出部は上向きにし、完全にガスを噴出させてから処置をする。
付近の着火源、高温体及び付近の可燃物を素早く取り除き、風下の人を避難させる。
着火した場合に備えて、適切な消火器を準備する。
回収作業においては、火花を発生しない安全なシャベル等を使用する。
漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。

環境に対する注意事項 : 漏出液を下水や側溝等に流してはならない。
流出した製品が河川等に排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。
密閉した場所に入る前に換気する。
少量の場合は乾燥砂土・おが屑・ウエス等に吸収させて密閉できる空容器に回収する。
大量の場合には盛土で囲って流出を防止し、液の表面を泡で覆い、安全な場所に導いて回収する。

二次災害の防止策 : 付近の着火源となるものを速やかに取り除くとともに消火剤を準備する。
床に濡れた状態で放置すると、滑りやすくスリップ事故の原因となる為、注意する。
漏出物の上をむやみに歩かない。
火花を発生しない工具を使用する。
廃棄物は関係法規に従い、処理すること。

7. 取扱い及び保管上の注意(関係法規に準拠して作業すること)

技術的対策 : 静電気対策のため、装置等は接地し、電機機器類は防爆型(安全増型)を使用する。
適切な保護具を着けて作業すること。
工具は火花防止型の物を使用する。

局所排気・全体換気 : 屋外又は換気のよい場所で取扱いこと。

安全取扱注意事項 : 周辺で火気、スパーク、高温物の使用を禁止する。
容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、または引きずるなどの取扱いをしてはならない。

使用前に取扱説明書を入手すること。
すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
この製品を使用するときに、飲食または喫煙をしないこと。
裸火または高温の白熱体に噴霧しないこと。

加圧容器 ：使用後も含め、穴を開けたり燃やしたりしないこと。
使用時には、使用者にかからないように風の流れを背後から受けるようにすること。
漏洩を防止する。
温度が高くなる場所に置くと、容器が破裂する恐れがある。
取扱後は手洗い等を十分に行い、衣服に付着した場合には着替える。
酸化剤との接触禁止。
吸い込まない。
密閉された場所における作業には、十分な局所排気装置を付け、適切な保護具を着けて作業すること。
静電気対策を行い、作業衣・作業靴等は通電性のものを使用する。

適切な保管条件 ：幼児の手の届かない所に置くこと。
直射日光を避け、通風の良い所に保管する。
缶が錆びて内容物が漏出、又は噴出する恐れがある為、水回り等の湿気の高い所での保管は避けること。
火気、熱源、スパーク、静電気蓄積を避ける。
40℃以上になる所には置かないこと。
危険物の表示をして保管する。
ハロゲン類、強酸類、アルカリ類、酸化性物質との接触並びに、同一場所での保管を避ける。
その他、消防法、労働安全衛生法等の法令に定めることに従う。

８．曝露防止及び保護措置

設備対策 ：取扱い設備は防爆型を使用する。
静電気対策に対する予防措置を講ずること。
屋内使用の場合、密閉された装置、機器又は局所排気装置を使用する。
取扱い場所の近くには、高温、発火源となるものが置かれないような設備とすること。
この物質を貯蔵ないし取り扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。

曝露限界値

成分名	管理濃度（安衛法）	許容濃度		
		日本衛生学会	ACGIH(TLV-TWA)	ACGIH（TLV-STEL）
液化プロパン	設定されていない	設定されていない	1000ppm（2009 年）	設定されていない
液化 n-ブタン	設定されていない	500ppm	1000ppm（2009 年）	設定されていない
液化 i-ブタン	設定されていない	500ppm	1000ppm（2009 年）	設定されていない
鉱油（流動ﾊﾟﾗﾌｨﾝ）	設定されていない	鉱油ミストとして 3g/m3 以下	鉱油ミストとして 5g/m3 以下	設定されていない

保護具　：必要に応じて着用する。

呼吸器の保護具　；　有機ガス用防毒、防塵マスク。
密閉された場所では、送気マスク、空気呼吸器。

手の保護具　；　不浸透性の保護手袋。

目の保護具　；　保護眼鏡、ゴーグル型、防災面。

皮膚及び身体の保護具　；　作業内容に応じて不浸透性保護衣、前掛け、通電性の靴等。

適切な衛生対策　：作業中は飲食、喫煙をしない。取扱い後は手をよく洗う。

９．物理的及び化学的性質、危険性情報

	内容液	噴射剤
状態	液体	大気圧下：ガス状 圧力容器内：液状
外観	茶褐色透明	無色透明
臭い	溶剤臭	無臭
ＰＨ	該当しない	該当しない
融点	データなし	-187.7～-138.4℃
沸点	データなし	-42.1～-0.5℃
引火点	86℃ （密閉式、合成ｲｿﾊﾟﾗﾌｨﾝ系炭化水素として）	-104.4～-73.8℃
発火点	200℃以上 （合成ｲｿﾊﾟﾗﾌｨﾝ系炭化水素として）	405～550℃
爆発範囲	0.5～4.1　vol% （合成ｲｿﾊﾟﾗﾌｨﾝ系炭化水素として）	1.8～9.5 vol%
蒸気圧	データなし	0.278～1.275 MPa（40℃）
蒸気密度	1.0 以上（空気＝１） （合成ｲｿﾊﾟﾗﾌｨﾝ系炭化水素として）	1.895～2.538kg/m3 （1MPa、15.6℃）
比重	0.830（20℃）	0.545(20℃)
溶解性	水に不溶	水に微溶
ｵｸﾀﾉｰﾙ/水分配係数	データなし	データなし
分解温度	データなし	データなし
その他	動粘度　2.53㎟/S （40℃、合成ｲｿﾊﾟﾗﾌｨﾝ系炭化水素として）	データなし

１０．安定性及び反応性

安定性　：40℃以上になると破裂の恐れがある。
常用温度で缶内圧は約0.45MPa。

危険有害反応可能性　：酸化剤や過酸化物との接触で火災や爆発を起こすことがある。

避けるべき条件　：高温多湿な場所での保管及び火気の近くでの使用。
混触危険物質との接触。

混触危険物質　：過酸化物、強酸化剤。

危険有害な分解生成物　：燃焼により有害なガス（一酸化炭素や窒素酸化物等）を発生する。

１１．有害性情報（内容液について、人についての症例、疫学的情報を含む）

急性毒性（経口）　：[製品のデータ]情報なし。
[成分のデータ(防錆剤成分)]ﾗｯﾄ LD50(推定)：5g/kg 以上。1)
[成分のデータ(合成ｲｿﾊﾟﾗﾌｨﾝ系炭化水素)]
LD50：2000mg/kg 以上(限度試験；蒸留範囲が若干異なる製品の結果)。1)
C12-17 のｎ-、iso-ﾊﾟﾗﾌｨﾝ及びｼｸﾛｱﾙｶﾝの混合物で 5000mg/kg 以上のデータあり。1)

急性毒性（経皮）　：[製品のデータ]情報なし。

急性毒性（吸入；ガス）：[製品のデータ]情報なし。
[成分のデータ(ﾌﾟﾛﾊﾟﾝ)]
ﾓﾙﾓｯﾄ LC50(2h)＞55,000ppm、ﾓﾙﾓｯﾄ LC50(4h)＞38,890ppm。(ACGIH 7 th, 2001)
[成分のデータ(n-ﾌﾞﾀﾝ)]ﾗｯﾄ LC50(4h)：277,374ppm。(ACGIH 7 th, 2001)

急性毒性（吸入；蒸気）：[製品のデータ]情報なし。

急性毒性（吸入；ミスト）：[製品のデータ]情報なし。

皮膚腐食性・刺激性　：[製品のデータ]情報なし。
[成分のデータ(防錆剤成分)]皮膚に対して弱い刺激性がある。1)
[成分のデータ(合成ｲｿﾊﾟﾗﾌｨﾝ系炭化水素)]
ｳｻｷﾞで中程度の皮膚刺激性がある。P11＝3.7(蒸留範囲が若干異なる製品の結果)。1)

眼に対する重篤な損傷性・眼刺激性　：[製品のデータ]情報なし。
[成分のデータ(防錆剤成分)]眼に対して中程度の刺激性がある。1)
[成分のデータ(合成ｲｿﾊﾟﾗﾌｨﾝ系炭化水素)]ｳｻｷﾞで刺激性なし。1)

呼吸器感作性　：[製品のデータ]情報なし。

皮膚感作性　：[製品のデータ]情報なし。

生殖細胞変異原性　：[製品のデータ]情報なし。
[成分のデータ(合成ｲｿﾊﾟﾗﾌｨﾝ系炭化水素)]
データはないが、C10-13 を主成分とするｎ-、iso-ﾊﾟﾗﾌｨﾝ及びｼｸﾛｱﾙｶﾝの混合物では in vitro、in vivo とも陰性。本成分は C12-16 の iso-ﾊﾟﾗﾌｨﾝであり、変異原性はないと推定される。1)

発がん性　：[製品のデータ]情報なし。
[成分のデータ(合成ｲｿﾊﾟﾗﾌｨﾝ系炭化水素)]
国際的機関で発がん性と評価された例はない。1)

生殖毒性　：[製品のデータ]情報なし。
[成分のデータ(合成ｲｿﾊﾟﾗﾌｨﾝ系炭化水素)]
データはないが、C10-13 を主成分とするｎ-、iso-ﾊﾟﾗﾌｨﾝ及びｼｸﾛｱﾙｶﾝの混合物で生殖毒性なし。同属物質であり生殖毒性はないと推定される。1)

特定標的臓器・全身毒性（単回曝露）　：[製品のデータ]情報なし。
[成分のデータ(ﾌﾟﾛﾊﾟﾝ)]
ACGIH に、人への影響として麻酔作用を示すとの記述がある。
[成分のデータ(n-ﾌﾞﾀﾝ)]
ACGIH 及び産衛学会勧告に、人において高濃度吸入で麻酔作用または中枢神経系抑制を示すとの記述がある。

特定標的臓器・全身毒性（反復曝露）　：[製品のデータ]情報なし。
[成分のデータ(合成ｲｿﾊﾟﾗﾌｨﾝ系炭化水素)]
データはないが、C9-13 を主成分とするｎ-、iso-ﾊﾟﾗﾌｨﾝ及びｼｸﾛｱﾙｶﾝの

混合物の12週間吸入試験でNOAEL＝2,000mg/m3。同属物質であり、さらに分子量が高いので、このものよりも毒性は低いと推定される。1)

吸引性呼吸器有害性　：[製品のデータ]情報なし。
[成分のデータ(防錆剤成分)]動粘度：19.5mm2/s(40℃)。1)
[成分のデータ(合成ｲｿﾊﾟﾗﾌｨﾝ系炭化水素)]
炭化水素で粘度が低く、肺に入ると危険。1)
動粘度：2.53mm2/s(40℃)。1)

その他の情報　：[製品のデータ]情報なし。

１２．環境影響情報

水生環境急性有害性　：[製品のデータ]情報なし。
[成分のデータ(合成ｲｿﾊﾟﾗﾌｨﾝ系炭化水素)]
水に対する溶解性が極めて低く、溶解度以下では有害影響はないと推定される。1)

水生環境慢性有害性　：[製品のデータ]情報なし
[成分のデータ(合成ｲｿﾊﾟﾗﾌｨﾝ系炭化水素)]
C8以上のｲｿﾊﾟﾗﾌｨﾝは概ね難分解性であるが、低蓄積性。1)

その他の情報　：[製品のデータ]情報なし。

１３．廃棄上の注意

廃棄をする場合にはガスを完全に抜いた後に行う。

残余廃棄物　：廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。
ガスを完全に抜いた後の内容液は、許可を受けた産業廃棄物処理業者に委託するか、または珪藻土等に吸着させて開放型の焼却炉で少量ずつ焼却する。その場合は有害性ガスを発生する為、洗浄装置の無い焼却炉を使用しないこと。
容器、機械装置等を洗浄した排水は地面や排水溝へそのまま流さないこと。

汚染容器・包装　：中身を使い切ってから分別廃棄する。

１４．輸送上の注意

「７．取扱い及び保管上の注意」の項を参照のこと。

輸送の特定の安全対策及び条件　：運搬に際しては容器を40℃以下に保ち、転倒、落下並びに損傷がないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。

国内規制

陸上輸送　：消防法ほか法令の輸送について定めるところに従う。
海上輸送　：船舶安全法に定めるところに従う。
航空輸送　：航空法に定めるところに従う。

国際規制

国際分類　：IMDGコード　class　2.1
国連番号　：1950

１５．適用法令

労働安全衛生法	: 引火性液体（液化ﾌﾟﾛﾊﾟﾝ、液化 n-ﾌﾞﾀﾝ、液化 i-ﾌﾞﾀﾝ） 通知対象物質（鉱油、液化 n-ﾌﾞﾀﾝ、液化 i-ﾌﾞﾀﾝ）
船舶安全法	: 高圧ガス、引火性液体
航空法	: 高圧ガス、引火性液体
高圧ガス保安法	: 適用除外（液化ガス・可燃性ガス） 但し、政令告示並びに高圧ガス保安一般規則規定に従う。
消防法	: 第四類第三石油類
危険物船舶運送及び貯蔵規則	: IMDG コード　class 2.1(UN No. 1950)
毒物及び劇物取締法	: 該当しない。
海洋汚染防止法	: ﾌﾞﾃﾝｵﾘｺﾞﾏｰ(合成ｲｿﾊﾟﾗﾌｨﾝ系炭化水素)；有害液体物質（Ｘ類物質）1）を含む 防錆剤成分 ； 油分排出規制（原則禁止）1)
水質汚濁防止法	: 防錆剤成分 ； 油分排出規制（許容濃度 5mg/l）1)
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	: 防錆剤成分 ； 拡散、流失の禁止 1)
下水道法	: 防錆剤成分 ； 鉱油類排出規制（許容濃度 5mg/l）1)
ＰＲＴＲ法	: 該当しない。

１６．その他の情報

参考文献
1）原料ＭＳＤＳ
2）液化石油ガスＭＳＤＳ
3）化学物質管理促進法対象物質全データ
4）労働安全衛生法対象物質全データ
5）毒物及び劇物取締法対象物質全データ（化学工業日報社）

記載内容の取扱い

記載内容は、現時点で入手できる資料、情報、データ等に基づいて作成しておりますが、含有量、物理化学的性質、危険・有害性等に関しては、いかなる保証をなすものではありません。

また、注意事項は通常の取扱いを対象としたものなので、特殊な取扱いの場合には、用途・用法に適した安全対策を実施の上、ご使用下さい。

以上